



第54回全国豆類経営改善共励会において、愛知県、三重県の農家が受賞

全国豆類経営改善共励会は、全国農業協同組合中央会及び株式会社日本農業新聞が主催し、昭和47年度から毎年開催されています。本共励会では、豆類生産において経営改善に積極的に取り組み、模範となる経営体や生産集団を表彰するとともに、その優れた取組や成果を広く紹介しています。

各県及び地方ブロックの審査を経て、全国審査委員会で優秀と認められた経営体等に、農林水産大臣賞をはじめとする各賞が授与されます。

このたび開催された第54回全国豆類経営改善共励会において、東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）から2名が受賞しました。

6月26日、JAビル（東京都）にて表彰式が行われました。



農林水産省農産局長賞

受賞者：鶴田 晃康氏（愛知県安城市）

～スマート化と徹底的な栽培管理～

大豆単収 233kg/10a（フクユタカA1）



全国農業協同組合連合会

経営管理委員会会長賞

受賞者：伊藤耕業 伊藤 久寿氏（三重県菰野町）

～スマートでディテールにこだわった農業～

大豆単収 138kg/10a（フクユタカ、サチユタカA1）



伊藤氏（左）と鶴田氏（右）

収益を生む畑作へ！
農業の可能性を広げる一步！



全国10点の入賞者、団体の皆様

お問合せ先 生産部 生産振興課 TEL 052-223-4622

水田政策の見直しに関する地方説明会（東海ブロック）を開催しました

農林水産省は、6月29日に岐阜県羽島市で、令和9年度からの水田政策の見直しに向けて地方説明会（東海ブロック）を開催しました。

説明会では、令和7年4月に閣議決定した「食料・農業・農村基本計画」に基づき、農業構造転換集中対策を講じつつ、生産面・需要面の双方を強化する新たな水田政策を創設すること等を説明しました。



冒頭では、山本農林水産大臣政務官があいさつをしました。

新たな水田政策（コメの中長期対策）の基本的考え方

- 1 水田活用の直接支払い交付金の抜本的見直し
 - ①非主食用米・業務用米の生産性向上
 - ②麦・大豆・飼料作物等の作物ごとの生産性向上
 - ③産地交付金の見直し（施策効果の検証、配分方法の改善）
- 2 コメ・コメ加工品の輸入拡大、米粉の需要創出等の国内外の需要拡大
- 3 中山間地域等直接支払・多面的機能支払の見直し、新たな環境直接支払の創設



農業関係団体や地方公共団体など、会場・オンライン合わせて約500人が参加しました。

質疑応答では参加者から「地域の特性やこれまでの先進的な取組が適切に評価される制度設計を求める」や「中山間地域で農地の面的な維持を支援する制度を設けることを要望する」など、多くの御意見をいただきました。

皆様からの御意見も踏まえ、新たな水田政策の詳細な制度設計について、検討を深めてまいります。

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

三重県多気町がオーガニックビレッジ宣言を行いました

農林水産省は、有機農業の生産から消費までを一体的に捉え、地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の創出に取り組む市町村を支援しています。

三重県多気町は、6月15日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。同町の宣言は、全国で初となる交付金事業によらないオーガニックビレッジ宣言です。多気町は、多気町有機農業推進協議会を中心とした有機農業の取組を通じて環境負荷の低減を図り、持続可能な農業の実現を目指しています。

東海農政局は、今回の宣言を契機として、多気町の農業がさらに活性化することを期待しています。

多気町オーガニックビレッジ宣言の概要

町内にあるキノコ工場から排出される菌床を堆肥化した「菌床堆肥」の活用や、田植え後に化学肥料・化学農薬を使用しない「多気特別米」の学校給食への提供に取り組むとともに、慣行農業と有機農業が互いに理解・尊重し合い、地元資源を活用した循環型農業の推進を図ります。

有機農業推進に向けた取組事項

【菌床堆肥の利用者数の増加】

- ・循環型の有機農業を推進するため、町内で生産された菌床堆肥の利用を拡大し、使用農業者の増加を図る。このため、堆肥舎を建設するとともに安定的な供給体制を確立する。
- ・菌床堆肥の利用方法や定植作業等に関する研修会を実施する。

【有機農産物の流通、消費等の取組】

- ・生産者や町内農産物販売店等と連携し、安定した品質の有機野菜の供給体制を構築するとともに、消費者の理解を促進する。また、有機野菜を取り扱う町内取扱店舗の拡大を図る。
- ・生産者、多気郡農協、給食関係者等と連携し、現在取り組んでいる「多気特別米」の学校給食への提供回数を拡大する。また、有機米生産の増加に向けた研修会を実施する。



オーガニックビレッジ宣言記者会見での記念撮影の様子

お問合せ先 生産部 環境・技術課

TEL 052-746-1313

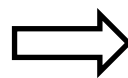
現在営農されている市町村以外での営農拡大を考えている農業法人等の皆様へ ～アンケートを実施しています～

東海農政局では、「現在営農されている市町村以外でも新たに営農しようと考えている方」と「新たな担い手を求める地域」との橋渡しをするため、農業法人等の皆様を対象に、営農を希望される地域や拡大しようとする農地面積等の意向をお尋ねするアンケートを行っています。

回答内容を、営農を希望される自治体（県・市町村）等に提供し、新たな担い手を求める地域との橋渡しをさせていただくことで、皆様の営農拡大をお手伝いするとともに、県や市町村による地域農業の担い手確保を支援してまいります。

東海農政局からのハガキが届きましたら、回答に協力いただけますようお願いいたします（所要時間は5分程度です）。

こちらの二次元コードからもアンケートにご回答いただけます。



【アンケートをお願いする背景】

各地で10年後の農地利用を明確化した「地域計画」が策定されましたが、将来の受け手が位置付けられていない農地が約3割（東海3県では約4割）を占めています。

多くの市町村が、地域農業を維持・発展させていくため、地域外からの担い手の受入れを検討しています。

地域計画（目標地図）の一例



農業法人等の皆様による一層の農地の引き受けが期待されています

お問合せ先 経営・事業支援部 担い手育成課

TEL 052-715-5191

東海農政局は、7月13日に障害者等が農業分野で活躍することを通じ社会参画を実現していく「農福連携」の取組をさらに推進するため、東海3県（岐阜、愛知、三重）の関係者が集まる「農福連携等地域別交流会in東海農政局」を開催しました。



株式会社DAI
サービス管理責任者 星野 竜彦氏



農福連携等応援コンソーシアム総会の様子

参加者からは、「農福連携の他社の具体的な取組について大変参考になった」、「直接意見交換ができてよかった」、「農福と商工との連携についても不可欠であると感じた」などの声が寄せられました。



みんなで耕そう！ 人・地域・未来の豊かな循環

多様で魅力的な農福連携(ノウフク)の取組を募集します

ノブフク・アワード 2026

エントリー受付中!

【応募期間】
2026年 6月15日(月)～8月24日(月)

詳細情報・応募はノフフク・アワード2026募集サイトまで
noufuku.jp/award

令和2年3月13日に、農林水産省をはじめとする関係省庁と関係団体が協力して設立した、農林漁業持続化コンソーシアムは、「様々な課題を克服するための団体です。国や地方公共団体はもとより、生産者、金融、地域コミュニティ、消費者、販売者、コーディネーターなどが連携し、

8月24日（月曜日）まで



気温が高いこの季節、食中毒を予防しよう！

特に夏季は細菌が増殖しやすく、食中毒に注意が必要です。食中毒予防は、まずは手洗いから。帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに手を洗うようにしましょう。また、調理器具の洗浄・消毒、食品の早めの冷蔵・冷凍保存や十分な加熱なども心掛けましょう。

食中毒予防の3原則「つけない」「ふやさない」「やっつける」を実践し、安全で健康的な食生活を送りましょう。

●つけない



手洗い



調理器具の洗浄・消毒



生の肉や魚は他の食品と分ける

●ふやさない



調理後は
早めに食べる



すぐに食べないなら
早めの冷蔵・冷凍保存

●やっつける



中心部まで
しっかり加熱



よくかき混ぜて
全体をしっかり加熱

お問合せ先 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651



『安全で健やかな
食生活を送るために』
農林水産省ウェブサイト

鈴木農林水産大臣が、「第2回みどり戦略学生チャレンジ」において農林水産大臣賞を受賞した東海学院大学の「生彩弁当」を試食しました

7月3日、鈴木農林水産大臣が「第2回みどり戦略学生チャレンジ全国大会」において農林水産大臣賞を受賞した、東海学院大学の学生が開発した「八代目生彩弁当」を試食しました。

大臣からは、「栽培の中で規格外にんじんはどれくらいの量がでるのか。」「規格外であることで、何が大変か。」「八代目と長く続く中で、先代の弁当と比較して改善のポイントはどこか。」「といった質問があり、学生は弁当企画の難しさや工夫のポイントを説明しました。



【上】大臣と「八代目生彩弁当」を試食をしながら説明する学生

【左】試食会に参加した東海学院大学健康福祉学部医療栄養学科の学生2人（前列）と、鈴木農林水産大臣（後列左）、東海学院大学健康福祉学部医療栄養学科長（後列右）

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610



GREEN×EXPO 2027

開催まで あと 8か月！

開催期間：令和9年3月19日（金）から9月26日（日）
開催場所：横浜市

【編集後記】

厳しい暑さが続き、つい冷たいものを口にしたり、寝苦しい夜が続き夏バテを感じる方も多いのではないのでしょうか。こまめな水分・塩分補給と休憩を心掛け、元気に過ごしながら実りの秋に向けて一歩ずつ準備を進めていきたいですね。

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4628

<ウェブサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」メールマガジンの登録はこちら 東海農政局 公式 X